

横浜市立大学新叢書 13『アウシュヴィッツへの道～ホロコーストはなぜ、いつから、
どこで、どのように』(2022-03 刊)を比較素材に、
—ロシア・プーチン政権のウクライナ侵略戦争との共通性と異質性を考える—

横浜市立大学名誉教授
永岑三千輝

はじめに

自己紹介・・・昨年総会でご講演の齋藤毅憲教授が学部長・大学院研究科長をなさっていたとき、市大商学部・大学院修士課程にも**博士課程を新設**しようと。

その要員として、1996年4月から市大教授に。65歳定年で2011年退職まで、現役としては15年間研究教育に従事。さらにその後、数年間は非常勤で。

2011年10月から現在まで、大学院都市社会文化研究科で客員教授として研究を継続。その一つの成果が、今回の拙著『アウシュヴィッツへの道』。

1. きっかけとしての『マルコポーロ』——アウシュヴィッツ否定論——事件

アウシュヴィッツの悲劇、ガス室におけるユダヤ人大量虐殺、ホロコーストと真正面から取り組むきっかけは、何か？

『マルコポーロ』事件・・・1995年1月、神戸大震災とオーム真理教事件で日本中が騒然とていたとき、文芸春秋社の若者向け雑誌『マルコポーロ』（2月号）に、「ナチ・ガス室はなかった」、戦後最大のタブーを打破する、と称する西岡昌紀（まさのり）（医者）の「論文」が掲載された。・・・日本における大衆的で影響力の大きな雑誌への**アウシュヴィッツ否定論、ホロコースト否定論**が登場。（編集長花田紀凱・現在も**極右雑誌 Hanada** 発行）

1995年1月は、アウシュヴィッツが解放されて（ソ連軍により）、**50周年目の記念すべき年**・・・その記念すべき年に、アウシュヴィッツの悲劇を否定する「論文」が登場

国内外から厳しい批判が文芸春秋社に・・・文芸春秋社は**即廃刊**を決定。

しかし、アウシュヴィッツ、ガス室はいったいどうだったのか、何も『マルコポーロ』で議論しないまま、廃刊されたので、多くの人がかつねに包まれたような事態に。

そこで、研究会が開かれ、学術雑誌に特集が企画され、ホロコースト否定論を批判する学術的論文が掲載されることに。

私も、歴史学研究会と戦争責任研究会で報告者として参加。

私が呼ばれたのは、その前年夏、1994年に『**ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆1941 - 1945**』（同文館）を発表していたからです。そのなかに、ユダヤ人大量虐殺に至る過程、その規模等についても、欧米の科学的歴史研究を踏まえて叙述しています。

「否定論」を批判するための研究会での報告をまとめ、学術論文として書き上げるための調査。

1995年8月、アウシュヴィッツ・ビルケナウを視察。

アウシュヴィッツ否定論は、欧米では戦後ずっと現在まで、ネオナチ、人種主義者などによって密かに、或いは公然と垂れ流されていた。ドイツではアウシュヴィッツ否定論は、公的な場での「喧伝」は刑法で禁じられていたので、密かに、しかし、言論の自由が保障されているアメリカでは公然と、否定論を主張する「学術雑誌」——歴史修正主義を名乗る一派の「雑誌」——が刊行されていた（いる）。

『マルコポーロ』に「ナチ・ガス室はなかった」という「論文」を書いた医者・西岡某は、こうしたアメリカの「修正主義」（極右・人種主義）の雑誌を読んで、「これはすごい、戦後最大のタブーを破るものだ」と「論文」をまとめて、いくつかの雑誌の投稿・・・『マルコポーロ』の編集長花田が「これはいける」と採用・掲載。

2. 歴史学上の欧米とわが国での論争

一大論争の発端は、これまた極右作家の発言・・・「ヒトラーはユダヤ人絶滅を命令しなかった」、「ヒトラー署名の絶滅命令書がないではないか」などの否定論。

「絶滅命令」をどう理解するか、ヒトラー署名の「ユダヤ人を絶滅せよ」という命令書がないことの意味は何か、など。

・・・歴史学的には、ヒトラーはユダヤ人を殺戮することを「予言」したり、この状況では「ユダヤ人に目には目を、歯には歯を」の大量殺戮をするのだという演説など、その時々政治軍事情勢に応じた命令を発している。

それでは、ヒトラーの演説のどの時点から、ユダヤ人大量殺戮がおこなわれるようにな

ったのか、これが論争点。

世界の歴史学の到達点(拙著の見地)・・・ユダヤ人迫害からユダヤ人殺戮への過程は、段階的に進行した。迫害の過激化から、殺戮へ、殺戮の拡大過程は、戦争との関連で段階的なものだった。・・・ヒトラーのプログラムや計画によるものではなく、ヒトラーの行ったドイツ第三帝国の膨張過程から戦争過程へ、その戦争が**電撃戦・ヨーロッパ戦争**から**総力戦・世界戦争**へ、その世界戦争が総力戦の泥沼化する過程で、しかも、全目的に敗退していく過程で、ヨーロッパ・ユダヤ人の殺戮が**累進的に過激化**した、と。

拙著は、この**段階的な過激化過程**を叙述。

3. ヒトラー第三帝国の侵略戦争とプーチン・ロシア大国のウクライナ戦争

①何を目指したか？

プーチン・・・ソ連崩壊によるロシア(小国化)、ウクライナ、ベラルーシなどの独立国家成立・・・大国ロシアの世界的地位・「領土」(支配権)などの喪失・・・「敗北意識」・・・敗北の克服、**大国ロシアの再建**・世界強国ないし世界的地位の再建を追求する意識。

ヒトラー・ナチ党・・・第一次世界大戦における「敗北」、その克服と「**世界に冠たるドイツ**」、**世界強国ドイツの再建**、**東方大帝国建設**が一貫した目標：ヒトラーの思想構造：

<http://eba-www.yokohama-cu.ac.jp/~kogiseminagamine/20050809HitlerMeinKampf.htm>

②いかなる領土・勢力圏の**再獲得・再建・創造**をめざしたか？

プーチン・・・チェチェン、ジョージアなどでのロシア(支配)地域の拡大。

クリミアを併合し、ドネツク、ルガンスクを「独立」させて、併合。

さらに、ロシアとウクライナ、ベラルーシを統合した**大国の形成**。

ウクライナを支配下に。

ヒトラー・・・第一次世界大戦で喪失した領土の回復。

オーストリア併合

ズデーテン・ドイツ人地域の併合(←**チェコスロヴァキア共和国**の解体)

第一次世界大戦の結果、123年ぶりに独立した**ポーランド共和国**から「回廊」を取り返す・・・ドイツ帝国時代の国境線の再建。

・・・ポーランドの拒否により、**侵略戦争**の火蓋を切る。**第二次世界大戦**。

③侵略戦争、その拡大、長期化と過激化、さらに泥沼化、敗退で、何が犠牲になったか？

プーチン・・・北・東・南の3方向からウクライナ侵攻開始→挫折→戦線縮小・東部に軍事力集中・・・東部（ルハンスク、ドネツク「人民共和国」・2つの州の確保＝領土拡大とクリミア併合の確立・・・あわよくばウクライナ全土を支配下に・・・ピョートル大帝の「偉業」賞賛。

ヒトラー・・・ソ連全土への総攻撃→短期電撃的な侵攻作戦バルバロッサの挫折→戦線縮小→スターリングラード攻防戦→敗退→占領地の縮小→ソ連領土から追放される。

その間、生贄としてのユダヤ人・ユダヤ民族（人種）への攻撃を最大限に活用。

*ユダヤの国際金融資本・・・それに支配された米英。

*ユダヤ人・ユダヤ民族、それを基盤としたマルクス主義・ボルシェヴィズムを徹底的に批判、殲滅を掲げる。

これら反ユダヤ主義は、世界強国ドイツ、東方大帝国ドイツ建設という目標のための手段。

ユダヤ人大量殺戮（ホロコースト）の論理と力学を世界戦争・世界強国建設の観点・枠組みから見ていく必要がある。

ホロコーストの論理と力学：

<http://eba-www.yokohama-cu.ac.jp/~kogiseminagamine/20060126ShiminKozaNote.htm>

④拙著をなぜ「アウシュヴィッツへの道」としたか？ 副題は、なぜ、いつから、どこで、いかにして・・・基本的問い。

ユダヤ人迫害・殺戮の犠牲者数・・・約 600 万人

アウシュヴィッツでの犠牲者数 100 万人から 110 万人（最大で 150 万人）

それでは、450 万人から 500 万人のユダヤ人犠牲者は、どこで、どのように迫害され、殺戮されたのか？

アウシュヴィッツばかりを見るのではなく、アウシュヴィッツへと至る過程を見据える必要がある。

アウシュヴィッツへと至る過程には、たくさん重要な事件・要因がある。
それらの事件や要因をどこまで、どのようにさかのぼるか？

関連・要因を探っていくと、ヨーロッパの歴史全体、世界史全体が問題になってくる。そこでは、まさに、**日本・日本人の歴史も関わってくる**。

まさに、今のウクライナ戦争、ロシア・プーチン政権によるウクライナ侵略は、世界史・世界的関連・世界的影響の中にある。

その関連の中から、どのようなことを行うことが、一人一人の日本人に求められているのか？

軍事力の飛躍的増大・防衛費の大々的増加の方向に進むのか？
それとも、そのような方向に流れない**理性・平和・外交の力の増強**に向かうのか？
その一つの方法が**歴史から学ぶ**ことであろう。

結び

ヒトラーは、生まれたときからヒトラーではない。

拙著『アウシュヴィッツへの道』の表紙写真・・・ヒトラー生家前の警告の碑。

<http://eba-www.yokohama-cu.ac.jp/~kogiseminagamine/2019-06-10Hitler-Geburtshaus-Braunau-am-Inn.html>

ヒトラーはどこでどんな両親のもとで生まれ、赤ん坊の時から成長の過程で、どのような体験をし、どのような環境で生活し、苦闘したのか？何が彼の確信を鍛え上げ、何がたくさんのドイツ人を引き付けたのか？ どのような諸要因が、われわれの知るヒトラーをつくりだしたのか？

その時々、彼の意識を左右したのは何か？「天才」としての自覚などのようにして？

プーチンについても同様。

今のプーチンを作り上げたのは、どのような経過と経験があったからか？

その観点からすれば、実に無数のことが、ヒトラーやプーチンを生まないようにするために必要なことがわかるのではなからうか？

問われていること： 現在の日本人は、ホロコーストの歴史から学んで、どんなことをなすべきか？ 何ができるか？